

氏名(本籍)	ふか がわ ひろ き 深川宏樹(沖縄県)			
学位の種類	博士(文学)			
学位記番号	博甲第6360号			
学位授与年月日	平成25年3月25日			
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当			
審査研究科	人文社会科学研究科			
学位論文題目	争いと身体観に関する人類学的研究 -ニューギニア高地における仲裁と村落裁判-			
主査	筑波大学教授	Ph.D.	内山田	康
副査	筑波大学教授	博士(文学)	前川	啓治
副査	筑波大学准教授	博士(文学)	中野	泰
副査	京都大学教授	博士(文学)	風間	計博

### 論文の内容の要旨

本論文は、ニューギニア高地エンガ州サカ谷における争いとその処理を、血縁関係との関連から分析し、人びとが従う和解の論理を明らかにしようとするものである。著者は、血縁者間で争いが起きたとき、人びとが争いに起因する怒りや不満といった感情に関心を示す点に注目する。人びとの感情への関心は、当該地域の心理的・身体的な人間観に基づいている。それゆえ著者は、争いとその処理の論理の理解に向けて、当該地域の人間観から接近する。ニューギニア高地エンガ州サカ谷における争いの処理は、西洋的な個人と社会を前提とし、逸脱した個人を規範に即して矯正するという社会統制の枠組みでは捉えられず、複数の関係によって構成される分割可能な人格の枠組みにおいて捉えられねばならないことが、詳細な民族誌的事例の積み重ねを通して論証される。

第I章「序論」では、本論の理論的枠組みである特定地域に固有な心理的・身体的な人間の概念(人格論)が検討される。モースに端を発する人格論は、西洋近代の個人主義的な人間観を相対化し、地域に固有な人格のあり方を明らかにする必要性を説くものである。なかでも、マリリン・ストラザーンは西洋的な個人との対比からメラネシアの分割可能な人格(dividual person)についての理論を提示している。そこでの人間は複数の関係によって構成され、人間の外部で進行する諸関係が、それに関わる人々の身体に直接影響するとされる。だが、こうした人格論においては、争いや政治的競合は十分に主題化されなかった。パプアニューギニアの争いを扱った先行研究では、比較的大規模な争いや戦争を主に取り上げ、社会統制モデルを批判し、いかに争いや政治的競合が、親族や姻族との友好関係を一時的に否定するかが論じられた。こうした研究においては、友好関係と敵対関係がどのように併存するという点が不明瞭であった。本論は、友好関係と敵対関係が併存していること、また地域固有の人格の論理が働いていることを明らかにしている。

第II章「調査地概要と歴史的背景」では、パプアニューギニアの概要を述べたうえで、調査地であるエンガ州サカ谷の地理、生業形態、物質文化について概観する。また、現在のエンガ州サカ谷の親族関係や争いとその処理のあり方を理解するうえで重要な植民地統治から独立までの歴史を辿り、人びとの歴史認識について記述する。この歴史認識においては、植民地政府によって厳格な法が敷かれ、独立後に秩序が崩壊し、争いが頻発するようになった点が強調されていることが示される。

第Ⅲ章「血縁と交換による親族関係の構築」では、当該地域の親族集団であるクランの概要やクラン間の関係、そして血縁関係の特徴を提示する。現地の血縁の観念にしたがえば、血のつながりは単に生まれによって決まるものではなく、共住や共食、協働や婚資への財の援助などを通して、能動的に維持されなければならない。その点は、葬儀時に死者の父方親族から母方親族に対してなされる贈与の事例において顕著である。民族誌的事例では、誕生から死までの一連のライフサイクルのなかで、個人が母方親族との血縁を能動的に維持しえたことが、葬儀時の贈与の条件であることが示される。このように集団間の人間と財の贈与交換と関連づけて、血縁関係の構築的側面が明らかにされる。

第Ⅳ章「身体に発現する呪い」では、血縁者間の争いで生じる呪いの事例を取り上げる。当該地域の身体や感情についての観念によれば、血縁者間の争いに起因する激しい怒りや不満といった否定的な感情は、不可視であるが、後に呪いとなって当事者双方の身体に病などの可視的な悪影響を及ぼす。呪いの具体的な事例を通して、当事者や周囲の人びとが呪いをどう解釈するかに応じて、その効力の強弱が変化することが記述される。呪いは、当事者たちの解釈によりその効力が変わるため、政治的な操作の余地が生じる。その一方で、意図的に操作したり制御したりすることができない身体や感情の変容が、呪いの事象を強く規定している。血縁者間の否定的な感情や身体の不調が、人びとの注意を過去の争いにむけさせ、和解へとむかう行動を引き起こしている点が、地域特有の身体観に着目した民族誌的事例を通して明らかにされる。

第Ⅴ章「争いの仲裁」では、争いの仲裁の事例を記述する。仲裁とは、クランのリーダーをはじめとする成人男性らが、村落中央の広場に集まって話し合う、地域特有の争いの処理方法である。クラン内の争いの仲裁においては、上記の身体と感情の観念のために、争いに起因する否定的な感情が呪いに転化する危険性がある。そのため、クラン内の仲裁では、争いの原因や当事者の非を追及することよりも、当事者の否定的な感情を鎮めることが優先される。それに対して、クラン間の争いの仲裁では、当事者の感情への配慮は薄れ、より競合的な側面が強くなる。その際にも、クラン間にまたがって血のつながりをもつ母方親族が、当事者を友好的な関係へと移行させることを試みる。このように、クラン内外の争いの仲裁を比較することを通して、当事者間の関係に応じた、異なる仲裁の方法がとられることが示される。

第Ⅵ章「村落裁判による競合」では、国家独立時に外部から導入された村落裁判に焦点を当てる。まず、裁判制度導入の歴史を概観して、人びとが植民地期に裁判を行った植民地行政官に代表される国家の権威を希求している点に言及する。現在の村落裁判は、植民地行政官の裁判を模倣したものである。人びとは村落裁判に国家の権威を見いだす一方で、同じ村落裁判を否定的に評価する傾向にある。なぜなら、審理の場では、血縁者間では抑制されねばならないあからさまな政治的競合が展開するからである。また、村落裁判では当事者の非や争いの原因が追及され、判決というかたちで白黒がはっきりとつけられる。こうした行為は、当事者の怒りや不満を増幅させる。判事は、当事者に怒りや不満を表出させず、これを高圧的な態度で抑圧する。裁判後に、怒りや不満を鬱積させた当事者がさらなる政治的競合へとむかい、最終的に呪いが生じうることを示される。

第Ⅶ章「考察」では、争いとその処理に関する民族誌的諸事例を、感情の現われ方や扱われ方に焦点を当てて比較して、身体と感情の作用の仕方から明らかになるニューギニア高地の人格論について論じる。対象地域の人間観に基づけば、身体の内側で起きていることと、外部で起きていることは類似しており、かつ相互に影響しあう。それゆえ、人びとはその類似性を手掛かりに、二つの領域の一方を見て、他方を類推して行動する。

争いによって否定的な感情が生じたとき、仲裁はその感情を可視化させ、肯定的な状態へと変容させる。それとは対照的に、村落裁判は否定的な感情をむしろ抑圧し、不可視化してしまう。村落裁判で抑圧された感情や、仲裁で解消されなかった感情は、潜在した状態で持続し、いつか当事者の身体に病として可視化する危険性がある。そこで、人びとは否定的な感情の悪影響を予期しつつも仲裁を行い、村落裁判を中断させ

る。さらに、争いに起因する否定的な感情は、呪われた者に病をもたらすだけでなく、再び血縁を維持する行動をとらせる側面をもつ。こうした血縁維持の形式は、当該地域に特有の心理的・身体的な人間の概念から理解される必要がある。この人格のもとでは、血縁者間の争いによる関係の切断は、当事者にとって自己破壊的で危険なものであり、その危険性が関係維持の動力となることが示される。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、争いの仲裁と村落裁判を比較することを通してニューギニア高地の人格論の論理に迫った極めて優れた民族誌である。儀礼的交換と争いはメラネシア研究においては、古典的なテーマである。また、マリリン・ストラザーンのニューギニア高地の人格論に着目した交換論以後、人格論と交換論は一つの枠組みで議論されるようになった。本論文は、争いの仲裁、そして仲裁されえない身体と感情のプロセスを、儀礼的交換と争いの枠組みを越えて、人格論の立場から議論している点、すなわち前述の二つの問題系を横断して議論を展開している点がユニークである。争いの仲裁と村落裁判の民族誌的事例においては、複雑な関係とプロセスが、複雑さを失わないまま分かり易く記述されている。交換論と争い、交換論と人格論という二つの問題系を、感情と身体に関するローカルな論理を経由して統合させるという着眼は、非常に斬新である。人格論・身体論の問題として争いを考察できることを示した本研究は、民族誌として豊かなだけでなく、人類学の理論の発展にも寄与している。今後は外部との繋がりを持つ新しいリーダーたちを、この人格論・身体論にどのように位置づけるかという未解決の問題を解明する事が望まれる。

平成 25 年 1 月 10 日、人文社会科学研究科学学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと、本論文について著者に説明を求めた後、関連事項について質疑応答を行った。審議の結果、審査委員全員一致で合格と判定された。

上記の論文審査ならびに最終試験の結果に基づき、著者は博士（文学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。